

# イオラニ、 プナホウへの道



ドクター高橋俊明  
心理学博士  
ドクター高橋塾塾長  
宮崎県出身。東京教育大  
理学部生物学科卒業。東  
京教育大教育学部心理学科で修士号取得、ハ  
ワイ大心理学部で博士号取得。1968年に川崎  
市、69年に文京区、そして77年にホノルルに  
塾を設立。2015年は、塾からカメハメハ校に2  
人、ハナハウオリ校に3人、イオラニ校に35人、  
プナホウ校に70人合格。  
Web: www.juku-in-hawaii.com  
☎808-949-3366 / 808-679-5612 (日本語)

## [No.135] 楽しサマーファン

### サマーファン再開

1977年の第1回サマーファンに、当時小学4年生の早見優さんも参加しました。それ以来、彼女は、中1まで、毎年、参加しました。最近、その当時の生徒たちから、「昔と同じような楽しい思い出を自分の子どもにも体験させたい」と塾に問い合わせがあり、今回、しばらくぶりに塾のサマーファンを再開することにしました。安心して任せられる経験のある担当者がそろったからです。

塾のサマーファンの特徴は、午前中にしっかり勉強、お昼から様々な野外活動を楽しみ、午後4時までに塾に戻ってくるという、「よく学び、よく遊ぶ」ことにあります。対象者は、幼稚園生から中学生、7名の生徒に2名の担当者が付き添います。これまで、マカハ方面の養鶏場や養豚場の見学、プアケア方面での魚釣りやタコとり、陶器に絵付けをしてマイカップを焼き上げること、カイルアビーチでの水泳、アラワイ運河でのカニ釣りなど、生徒たちはハワイの大自然の中で思う存分、遊びまわりました。その一つ一つが、大人になっても忘れ

られない思い出になったと、多くの元塾生が語っています。

それと併に、父兄の視点からいえば、日頃から遊びにつれていきたいと思っていた所に、勉強の後、塾として連れて行ってくれるので、大助かりというアメリカ特有があります。塾では、スケートが楽しめるIce Palaceや、トランポリンができるTrampoline、巨大プールがあるWet N Wildなどに出かける予定です。気の合った仲間同士で一緒に楽しめるところに、家族で行く楽ししみとは異なったものがあるようです。そのような楽しみを通して、塾の先生方と生徒との絆がさらに深まり、それが午前中の勉強をもっと真剣に行うというふうな、「よく学び、よく遊ぶ」ことによる相乗効果が出てきます。

1日のスケジュールは、午前7時から8時の間に、生徒が塾にやってきました。午前8時から、1対1の個人教授を10時まで2時間行います。11時までに宿題を終え、お昼前に塾を出発します。ランチは、目的地で、もしくは目的地に行く途中でとります。その日の野外活動を終えて塾に戻るのには、午後の4時頃になります。費用は、個

人教授が、1時間\$84、サマーファンが、1日\$105です。6月1日から8月26日まで1週間(5日間)単位で申し込んでいただいています。

### 一緒に遊ぶと勉強が進む

日本で塾をやっている時も、ハワイで生徒たちと接している時も、国や時代に関係なく、普遍的なある一つの法則を私は経験してきました。それは、人は一緒に楽しいことに汗を流せば、自然と生徒と教師の心が通い始めるということでした。そしてそれがそのまま、生徒の向学心につながるのです。多くの遊びをとにも経験していけば行くほど、どんな子でも勉強意欲が増していくのです。だから、私は今でも、チャンスを見れば、希望する生徒を釣りやタコとりで誘ったりしています。不思議と、そんな生徒たちの合格率が、ずば抜けて高くなるのです。遊びと脳には、とても重要なつながりがあります。

### 遊びの心理学

さまざまな生き物の中で、いわゆる「遊び」を楽しむ生き物は、地球上の多種多様な種全体の数パーセントしかいません。昆虫類や爬虫類はもとより、魚類にも遊びは観察されています。子どもは時代にじゃれあうような遊びが多く観察されるのは圧倒的に哺乳類です。マウス(ハッカネズミ)では、その

一生を通して遊びが観察されていませんが、ラット(野ネズミやドブネズミ)になると、幼児期だけ多彩な遊びが観察されています。そんなラットも、成熟するとぼつたりと遊びをやめます。動物学者や心理学者にとって、この遊びというのは大きな疑問であり、課題なのです。

一般的に、脳の容量の大きい生き物、特に前頭前野の発達した生き物ほど、一生を通して遊ぶ期間が長くなります。人類と800万年前から共通の祖先をもっていたゴリラなどでは、遊びは大人になっても続きます。

これらのことから、よく遊ぶ生き物の脳は、あまり遊ばない生き物の脳より、環境の変化に柔軟に対応できる高い知能を備えていることがうかがわれます。確かに、人間の場合、大人になっても、いえ、100歳の長老になっても、遊び心の旺盛な人の瞳は、子どものような輝きを放っています。好奇心が全身からあふれ出ています。学生時代にお会いした物理学者の朝永振一郎先生(日本人二人目となるノーベル賞受賞者)のあの澄んだきらきらと輝く瞳と微笑みは、今なお忘れられません。「よく学び、よく遊ぶ」子供たちの瞳の輝きの中に、先生の瞳の輝きを垣間見ます。